

新しい友だちつくろう

広報 はばたき

新発田青少年健全育成市民会議

【健民少年団主催】

レクリエーションのつどい

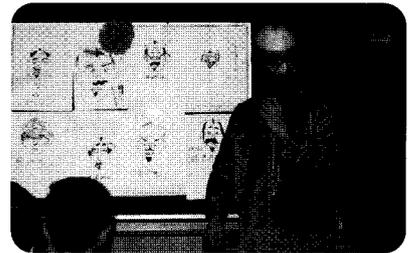
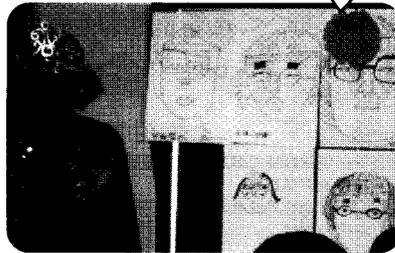
プレゼント交換

12月9日(日)

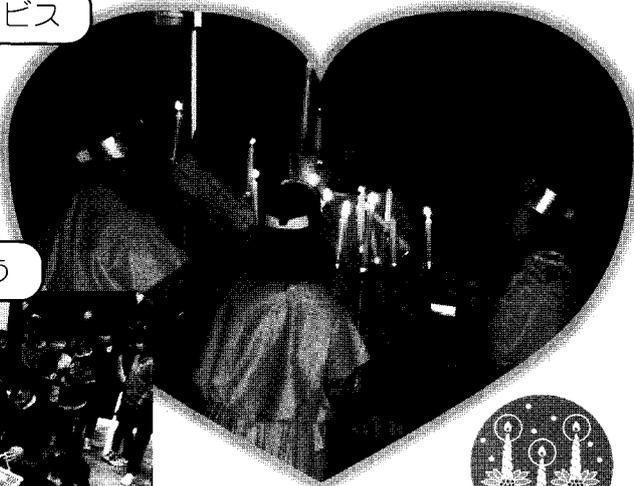
児童センター「遊戯室」



似顔絵コンテスト



キャンドルサービス



じゃんけん列車

買い物に行こう



もちつき



青少年健全育成市民一斉パトロール出発式

新発田青少年健全育成市民会議

平成24年11月3日(土:祝日) 駅前公園にて出発式を行いました。その後、カルチャーセンター、コモタウン、イオンの3会場他各地区の育成協議会で啓発活動を行いました。

「いじめ・命を考えよう」をテーマに、青少年の健全育成に係わる多くの団体が集い、現状の報告と対策について、情報や意見の交換をしました。その概略を紹介します。

§ 現況報告 §

《新発田児童相談所》

所長 樋口 賢二様

昨年度、新発田管内では70件の児童虐待について対応しました。年齢別に見ると小中学生の相談が全体の60%、幼・保育園児が20%、0歳から3歳児の相談件数が16%となっています。

主な虐待者の73%が実母というのが実態です。虐待の内容はネグレクトの相談が最も多く、全体の46%でした。子どもを放置・放任する例が多かったということになります。

児童虐待は早期発見・対応が大切です。そのためにも地域の皆さんから、児童虐待について関心を持って貰うよう、啓発・普及が必要だと考えています。

《新発田警察署生活安全課》

課長 神田 宏様

新発田署管内の刑法犯は、ここ数年減少傾向にあったのですが、昨年同期と比べると若干増加傾向にあります。内訳は自転車泥棒が155件、万引き116件、器物等損壊が104件となっています。

10月末までに補導した犯罪少年(14歳以上)は44人、それ以下の触法少年が7人、合計51人で



した。昨年同期と比べて17人減です。

昨年多かった触法少年による万引きが、大きく減少しています。

注意が必要だと思われるのは、暴行・傷害が昨年に比べて6人増加しています。子どもたちが粗暴になってきているよう心配です。

遊びやふざけ合いから生徒間の暴力行為、いじめに発展することもあります。学校でも注意深く見守り、警察沙汰になる前に、お互いに注意や指導をすることによって、防げるものもあると思います。

いじめの現状と対策

《新発田市教育委員会学校教育課》

課長 岡田 正栄様

大津の事件を受けて、文科省から「いじめ緊急調査」の指示が

青少年はぐくみ環境懇談会 平成24年11月28日(水)

～いじめ～ 命を考えよう

《参加団体》

- 新潟県新発田地域振興局児童相談所
- 新発田市教育委員会
- 新発田阿賀北地区保護司会
- 市立車野小学校
- 市立加治川中学校
- 私立中央高等学校
- 青少年健全育成市民会議・事務局
- 新発田警察署生活安全課
- 市少年補導委員会
- 市民生委員児童委員連合会
- 少年補導員等連絡会
- 市小中学校PTA連合会
- 社会教育委員
- 市防犯組合

ありましたが、当市ではそれ以前から各校の状況を把握・確認しておく必要から、全学校に対する調査を実施しています。

その結果、いじめの認知件数は小中併せて72件、その内、既に解消しているものが52件でした。昨年度一年間の認知件数が45件であったものが、

一学期の間に72件に増えました。これはいじめが急増したと言うよりも、今まで以上にしっかりと子どもたちと向き合い、子どもたちと話し合った結果が出てきたのであろうと考えています。

その他に、各学校では早期発見・早期対応のための実態調査、教育相談、いじめ見逃しゼロスクール運動、学級満足度調査等を計画的に実施し、個別指導、学級・学校経営の改善が進められています。

自らの命を絶つというような最悪の選択肢は、決してあってはなりません。「いじめは絶対に許さない・見逃さない」ということを肝に銘じて、子どもたちと関わっていくことが必要です。市教委としても学校での取り組みへの支援、状況把握、組織体制

や相談体制の充実に努めていきます。

《新発田市立車野小学校》

教諭 佐藤 八十穂様

子どもたちの人間関係づくりについて、大きく二つのことに取り組んでいます。

一つは「ソーシャルスキル教育」です。主に教師が行う寸劇を通して、良好な人間関係を作り出すための知識と具体的な技術を身につけさせることを目的とした取り組みです。「あいさつ・ほめる・励ます・謝る・感謝する・応答する」等について、温かい言葉がけを学びます。

もう一つは「縦割り班活動」です。上学年と下学年が一緒のチームになって活動し、子どもたちに自己有用感を持たせ「対人関係能力」を高めることを目指しています。



的としています。どの活動でも大切にしていることは、取り組んだ後、どんな気持ちであったかを必ずお互いに伝え合うことです。

その他にアンケート調査・教育相談等を実施し、いじめのない、いじめを見逃さない学校づくりに努めています。

《新発田市立加治川中学校》

教諭 大久保 忍様

生徒会でラブ&ピースという活動を展開しています。その中に、生徒の自作自演による「いじめ防止劇」があります。始めに問題提起編を上演し、各クラスでいじめに対する対応策や解決策を考えさせ、数日後、解決編を上演するという活動です。

その他にグループエンカウントーやソーシャルスキルトレーニングを、計画的に実施しています。さらに人と関わる力を高めるために毎週末、全クラスで班会議を行い、一週間の振り返りをするということを続けています。

生活アンケートの結果では、悩みを相談できる友達がいると答えた生徒が8割を切っており、友達関係が表面的になっているように思います。

最近、他の中学校の生徒との繋がりが広がり、それが性非行や性の逸脱行為に発展するケースが多いと言うことが、担当者間の情報交換の中で出てきています。各中学校での対策が急務であると考えています。



《新発田中央高等学校》

校長 関矢 伸雄 様

県内の高校では4月から7月までに117件、既に前年度の65件を上回るはじめが報告されています。今年になって急に多くなったと言ふことではなく、今まで分からなかったものが分かったからだと思ひます。

文科省の調査によれば、教師が発見したいじめは、全国平均では約52%なのですが、本県は23%、アンケートによる発見も全国平均で35%、本県はわずか7.7%です。これから見ても高校では小中に比べて、そういう部分の取り組みが弱かったのではないかと思ひます。

これらの反省にたち、本校の場合も今年のアンケートはできるだけ詳しく、具体的に状況を

つかめるように工夫し、問題点の早期発見に努めています。

起きた後の対応でなく、起こらない環境を作ることが大事です。そのためには勉強は勿論ですが、それ以外の所でも活躍できる場、居場所等を大事にしていきたいと思ひます。

質疑

Q 市民会議 高橋氏

調査の仕方が違うので、結果の数字は今までのものとは比較できないというのは、妙な話に聞こえます。意味のある調査統計によつて本場の現状把握ができるのではないのでしょうか。

A 学校教育課 岡田課長

国・県からの指定形式は無いので、学校が以前から実施している方法で現状を把握するようにお願いしました。

Q 市民会議 石塚氏

虐待に対する、その後の対応や解決の状況はどのようになっていますか。

A 児童相談所 樋口所長

虐待にはいろいろな要因が絡み合っており、一つの対応に何ヶ月も、場合によっては2年3年とかかるのが実状です。

Q 社会教育委員 皆木氏

アンケート調査や教育相談等先生方は多忙だと思ひますが、人的環境作りへの支援はどのよ

うになっていますか。

A 学校教育課 岡田課長

補助教員を15名、介助員を90名ほど配置しています。他にサポート指導員を6人配置しています。

Q 保護司 渡辺氏

警察と教育委員会の連携、情報交換はどのようにしているのでしょうか。

A 学校教育課 岡田課長

学警連という組織があつて、警察、市教委、各小中学校の担当者が集まつて、定期的に情報交換をしながら、子どもたちの健全な成長を見守っています。

意見

◎ 民生委員連合会 佐藤氏

いじめ対策の王道は無いと思ふので、大人が周りから見守り、いろいろな発信をしていくことが大切であると思ひます。



補導活動を
通して

街頭補導活動から
見える子どもたちの姿

新発田市少年補導委員会

会長 澤村 陽二

「お帰り、気をつけて帰って

ね。」と、巡回補導パトロール車から下校時の小学生にマイクから声をかけると、子どもたちが笑顔で元気よく手を振ってくれます。以前は、声をかけても振り向く程度でしたが、今ではすっかり私たちの行動に反応してくれます。



《西新発田駅》

青色回転灯のついた車が頻繁に巡回しており、子どもたちも安心して家まで帰られるという気持ちになつてくることもありますが、学校での取り組み強化もあります。いま学校では、地域とのつながりを深めようと、保護者や町内会・団体との連携に



取り組んでいます。巡回補導をしていても、校門前でのあいさつ運動や、横断歩道での安全指導など、よく目にするようになってきており、子どもたちを見守る大人の目が確実に増えています。これらを見て、子どもたちは「大人は僕たちをいつも見守ってくれている。」という安心感が出てきています。

子どもたちが健やかに育つためには、学校とともに、地域・団体との連携がより一層必要と思ひます。



《西しばた安心安全ステーション》

演題 「台輪活動を通しての地域絆づくり」

新発田台輪 四之町し組頭取 佐久間大輔 様



講師略歴

- ・昭和54年より新発田の台輪活動に携わる
- ・平成13年、四之町し組台輪小頭
- ・平成18年、同副頭取

- ・平成22年、同頭取
- ・平成13年、第16回国民文化祭ぐんまの祭囃子フェスティバルに於いて、三の町い組と共に、新発田台輪のあおりを披露

私の少年時代をよくご存知の恩師の目の前で、青少年の健全育成の話をするのは、いささか具合が悪いのですが、私が「健全であったかどうか」と言うことではなく、台輪を通じて地域の皆さんがどんなふうに係わっているか、台輪が集まってくる若い衆が四之町に来ると、何でよく言うことを聞いてくれるのか、というようなことを少しお話ししたいと思います。

我々の大事な「し組の台輪」は、魚水島さん、桂医院さんの近くに小さい公園があるのですが、そこに格納してあります。今日もそこから提灯を出してきました。今年初めての台輪との顔合わせでしたが、私などは動いていない台輪を見てさえも気持ちいい休まるような、勇気をもらえそうな気持ちになります。

四之町の台輪は材木町と言うだけあって、材木や彫刻、彫金飾り物など、本当に良いものを使っているそうです。

しかし、時代の流れの中で、痛んだ箇所も補修もままならず、車輪が壊れたり柱が折れていたりして、私が子どもの頃は他の町内の子どもたちから「四之町のぼつこれ台輪」と、さんざん言われました。実際、あまりにもボ

ロボロで曳き出しができた年もあったそうです。



昭和30年代に入ってから、私どもの親に当たる先輩たちが、せっかくなかある台輪を何とか曳き出しできるようにしたいと言うことで、「四之町し組会」を結成し、十一年以上かけてなんとか引つ張られるようにしたと聞いています。

現在の「し組会」のメンバーは、82歳の大先輩から15歳の少年まで、職業も建築、板金屋、呉服屋、魚屋など多種多様な方が集まっています。ですから台輪の修理なども、自分たちで直すことも沢山あります。他人任せにするのではなく、できることには自分たちが進んで係わっていく事で、責任感と台輪に対する愛着が、より強くなってくるのだと思います。

物としての台輪は勿論ですが、それに係わる組織やソフト、言い換えれば「地域の絆」を、次の世代に良いかたちで渡していくのが、頭取の責任でもあると考えています。

台輪が集まってくる若い衆の多くは、エネルギーを発散させてたくて集まってきました。どうや

ったら、そんな若い衆と一緒に台輪の運行ができるのか？先輩たちが代々やってきていたことが幾つかあるので、お話しします。

まず、「取締」と言われる若い衆をまとめる役、人間の資質です。当たり前のことを正々堂々とやること、卑怯なことはしないこと。これを肝に銘じておかなければなりません。

また、上の者がだらしないとい、説得力がありません。

例えば、台輪の運行の途中の、ちよつとした休憩の時に、取締役が、アスファルトの上にケツをつけて休んだりすると、「若い衆ががんばってるのに、お前ら何してんだ！」必ず大変な激が飛びます。ですから、諏訪神社を出て町内に帰るまでの5時間あまり、水を飲む時も、休む時も若い衆を先にして、役をもつ上の人たちは立ち通し、休憩は後回しです。

若い衆に法被渡しをする時には、私の手から直接、一人一人に渡します。その際に「四之町に出ていることを名譽と思つて、誇りを持つて台輪運行をしましょう。喧嘩祭りと言っくらいだから、大怪我に繋がる危険な場面も

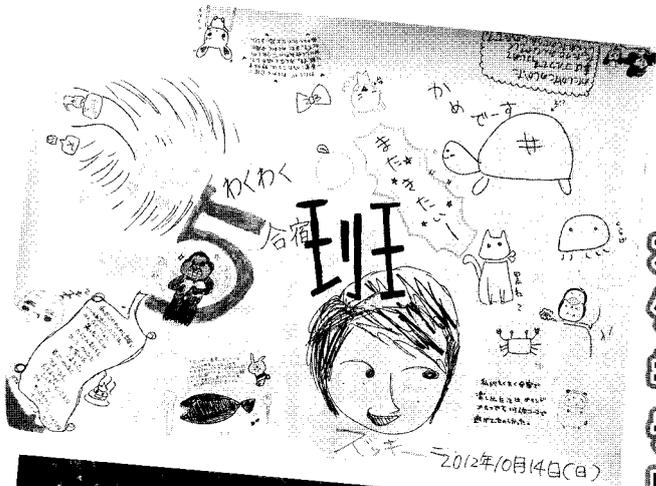
多々あり、そんな時に助けてくれるのは取締役だ。だから、特に取締役の顔をよく覚えておけ、取締役の言うことを聞かなかつたら、法被を脱がして叩き出すぞ。」と必ずお話をします。

また、台輪に集まる若い衆には、礼儀に關してもしつかりとお話をします。例えば、台輪を運行していると、他の町内の方がご挨拶に来て、「今年も良いお祭りになりましたよ」だとか、「次はどここの角でお祭りしましょう」と言うようなご挨拶を貰うことがあります。そんな時は、うちの町内の若い衆も、必ず豆絞りを外して、来られた方の方を全員向いてお迎えするように教えています。

こういった礼儀を一つ一つ教えていくのも、台輪が安全に動き、祭が盛り上がるひとつのこころだと思つております。

お祭りにはお酒がつきものですが、二十歳になったばかりの若い衆が、いきなり50・60代の先輩に話に行つたりしても、話が合うもんじゃない、遠慮して





オリエンテーション
 グランドゴルフ
 キャンドルサービス
 チャレンジ体験活動
 野外炊飯



10月13日(土)
 14日(日)
わくわく合宿

新潟県少年自然の家

- ・健民少年団
- ・ボーイスカウト
- ・緑の少年団
- ・子ども会連合会
- その他



あとがき

本号より、表紙に号数を載せてあります。市民会議は昭和59年に設立、当初は市民会議便りを発行していましたが平成11年公募により、渋谷和子さんの「はばたき」が愛称として採用され第1号がスタートしました。

当時の便りにこう書いてあります。子どもの「心の声」に耳を傾けながら子どもの「生きる力」を信じて取り組んでいきたいと。

深刻な「いじめ」「体罰」など子ども達を取り巻く環境は変わらず、しっかりと寄り添っていかなければいけないと、改めて思いました。

(渡辺富子)

発行 新発田青少年健全育成市民会議
 事務局 新発田市青少年健全育成センター
 住所 新発田市緑町二丁目六番二十六号
 電話 (〇二五四) 六〇八九七

編集委員

- 佐藤 靖雄 富樫 政晴
- 猿子 洋司 渡辺 富子
- 金田 緑 荒川真里子